

南田中小学校における児童との意見交換会 令和7年1月27日実施

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
1	教育委員会はどんな仕事をしているところですか。	教育委員会とは、三浦教育長と、ここに並んでいる4人の教育委員が月2回行う会議とこれら5人の組織、グループのことをいいます。 教育委員会は、区役所が行う事業のうち、教育と子供に関する仕事を専門的に行っています。学校の土地や建物などを管理する仕事や体育館のエアコンなど、校舎の設備や施設に関する改修を行っています。また、皆さんの使う教科書をどれがよいか選んだり、教職員の配置を決めたり研修を行うこと、子供たちの入学や転学なども教育委員会の仕事です。皆さんが安全に学校へ通えるように、シルバー人材センターにお願いして通学路で見守りをしてもらったり、また、学校にある皆さんの机や椅子、タブレット、ピアノなどを配備したり、先ほども一緒に頂きました給食を皆さんに食べてもらうことも教育委員会の仕事です。そして、私が何よりも好きなのは、こうして学校を訪問して、皆さんの声を聞いたり、様子を見たりすることがとても楽しい仕事だと思っています。 また、教育に関する仕事は種類も量もたくさんあるため、この5人のほかに事務局という事務的な仕事を行う職員がいて、実際には大勢の職員が練馬区の子供たちのために様々な仕事をしています。 練馬区では、今から12年前、皆さんがちょうど生まれた頃、平成24年に教育委員会の仕事の見直しを行い、小中学生だけでなく、生まれてから18歳ぐらいになるまでの子供全体に関する仕事をしていくことにしました。このため、保育園や学童クラブなどについても教育委員会の仕事となっています。
2	教育委員会の今の目標は何ですか。	教育委員会の目標は、自分らしさを大切に、心豊かに成長する人材を育成する。多様性を尊重し、他者への配慮や思いやりを持てる人材を育成する。社会の一環として、主体的に学び、協働し、役割を担える人材を育成する。郷土を愛し、郷土を誇り、持続可能な社会を持続発展させていく人材を育成するなどがあります。ちょっと堅苦しいことを言いましたが、このように、今、いっぱいいらっしゃる先生方や地域の方々、保護者の皆さんのご協力の下、学校に必要なものを買ったり、子供たちの居場所になる施設をつくったり、そういうことを通して皆さんの夢や目標を持って過ごすことができるまちの実現を目標としています。 6年生の皆さんは、この南田中小学校の自慢できるところ、自慢話がありますか。 練馬区の子供たちが、みんな自分の生活する地域を自慢に思ったり、誇らしく思ったり、それを周りに伝えるようになるまちづくりというのも教育委員会は目指しています。

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
3	タブレットの規制はどのようにして決めているのですか。	どうして規制をかけるかという、勉強する道具だからです。だから、勉強に関係ないサイトにはつながらないように、また皆さんの健康を考えて、夜中には使えないようにしています。それから、今はインターネットを使って、皆さんがいろいろな犯罪に巻き込まれたりというようなことも起きかねません。そういうことで、制限をかけているということです。誰が規制を決めているかという、教育委員会で決めています。しかし、実際にパソコンに制限をかけるという設定をしているのは専門の業者です。 このサイトは見たいので、これに限っては制限を外してもらいたいと思ったことはありますか。 もし勉強していて、何かこのサイトは使いたい、アクセスしたいというようなことがあったら、先生に言ってください。教育委員会から業者のほうに連絡して、ここの部分は見えるようにしてくださいとすることが可能ですので、若干時間がかかりますが、必要があれば、それができるということを知っておいてください。
4	どうして教育委員になろうと思ったのですか。	教育委員になろうと思ったことは、実はありませんでした。教育委員は特定の資格や特定の経歴で選ばれたり、自分からやりますと希望してなったりするものではありません。 教育長は練馬区の教育の仕事をよく知っている人の中から区長が区議会で相談して、ふさわしい人を選び、仕事をお任せします。教育委員は、教育や学術および文化についてよく知っている人の中から、同じく区長が区議会と相談してふさわしい人を選びます。私は特に教育や学術及び文化についてよく知っているというわけではありません。ただ、私は子供に障害の人がいるので、その人を育てた経験から、福祉的なお話もできるのではないかとということで、恐らく区長が選んでくださったのではないかと思います。 どうしてなろうと思ったかという答えはできないけれど、私が教育委員にならないかという話を受けたときは、本当に驚きました。練馬区の小中学生など、練馬区で育つ皆さんが、健やかに、この練馬で育ってよかったなと思えるような、教育委員になりたいと思ってお引き受けしたところです。 今後も皆さんの様子を見せていただいたりしながら頑張っていきたいと思っています。

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
5	教育委員会として大切にしていることはありますか。	皆さんにクイズです。皆さんが使っている教科書は、練馬区内みんな同じ教科書を使っています。では、練馬区に住んでいる方で、先生や専門家の人が集まって、練馬区ではこの教科書を使いましょうと決めているか、専門でない人が決めているか、どちらだと思いますか。 実は専門でない人が決めています。そこが実はすごく大事な点で、先ほど教育委員会はどんな仕事をしているかをお話しましたが、教育に関すること、子育てに関することに関して、方針を決めたり、実際に実行するときの環境を整えたりということを教育委員会がやっています。 今、言ったようなことを行うのにふさわしい人はどういう人かという、やはり専門家の人は必要です。専門家の人が決めるということは必要ですが、実は専門家だけでは駄目です。教育の専門の方は教育についてはよく分かっているけれども、それ以外の社会全体のことについて、全てを知っているかという、そうでもないだろうし、そうすると、練馬区に住んでいる専門家でない人の意見も併せて、教育だとか子育ての方針を決めるということがすごく大事です。ですから、ここに座っている私たちはそれぞれ違う分野で活動していて、私たちもその分野の視点での意見を言っています。私たちが何かを決めるときも、なるべく多くの人たちの意見を反映するように物事を決めていくということをやっています。 ですので、なるべく多くの人たちの意見を反映させるということを教育委員会は大事にしています。
6	他の学校と交流できるような行事などを考えていますか。	練馬区では、中学校1校と、それから通学区域が重なる小学校、1校から3校ぐらいまでが集まってグループをつくって、いろいろな小中学校で交流活動をやっています。南田中小学校では、南が丘中学校のグループということで、南が丘中学校、南が丘小学校、それから南田中小学校の3校でグループをつくって、交流活動をしています。今年度は6月に中学校に行って中学校生活を体験したり、7月や10月には中学生が小学校に来て、小学生と一緒に挨拶運動をしたりしたということですが、皆さんも実際にそういうことを体験したかと思います。 ほかの学校でも、例えばそれぞれの学校のいいところを紹介し合ったり、質問し合ったりする意見交換会や、小学校の代表委員会と中学校の生徒会と一緒に活動する委員会の交流、それから小学生の中学校部活動体験を行っています。 また、直接的な交流だけではなく、それぞれの学校で作成した図工の作品やいじめ防止に向けたポスターを学校間で交換して、一緒に活動なども行っているということです。 皆さんが中学校とこういう活動をしたい、それから小学校同士でこういう活動をしたいということがあったら、学校の先生方にお話をし、またいろいろな活動を考えていただければと思います。

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
7	体の不自由な人も来られるようにエレベーターやスロープを増やすとよいと思います。	今、練馬区の小中学校は、大泉にある小中一貫教育校を1校ずつとカウントすると、98校あります。昔は100校以上ありました。このうちの半分以上、50校以上が昭和30年から40年代に建てられています。 南田中小学校もこの3月で57歳になります。体育館は新しいですが、校舎は古い建物なので、体が不自由な人、お年寄りが使いやすい仕組み、いわゆるバリアフリーというものに配慮されて建っていません。本当だったら、この50校以上ある校舎を一度に建て替えて、全部バリアフリー、エレベーター、エスカレーター、スロープ、そういうものがつけられると一番いいんですが、いろいろ大人の事情があってできません。大人の事情を今幾つかご説明すると、1校を改築するのに大体、50億円から60億円かかると言われています。さきほど50校以上と言いましたが、例えば1校60億円かかるとして、それを50校すると、3,000億円。練馬区の1年の予算が、来年度予算でいうと大体3,500億円を超えています。だから3,500億円の予算で3,000億円を使ってしまうと、もうほかにも何もできなくなってしまう。学校の改築ばかり一生懸命やると、区の道の街路灯が全然つかなくなってしまうたり、区役所の人がいなくなってしまうたり、考えるだけでもちょっと怖いんですよね。そんなことはできないので、まず、それが大人の事情が1つ。 もう1つ目の大人の事情が、工事をするとき、建設会社に工事をお願いしますが、建設会社もそんなにたくさんあるわけではないので、1つの会社が一週に何十校も工事をすることはできない。こういった大人の事情があるので、古い学校から順番に今は建て替えをしています。その建て替えに合わせてバリアフリーにしているということです。区内の学校98校のうち、小中学校16校に今、エレベーターを設置して、これをどんどん増やしていこうというふうに考えています。 ただ、建て替えずにできるバリアフリーにはどういうものがあるかというのは考えていて、できることは今、やっています。南田中小学校でも、東側の昇降口と校舎北側の学童クラブの入り口にスロープがついているかと思いますが、これは建て替えせずにできるバリアフリーだと思っています。 それから、校舎を建て替えないでエレベーターをつけられないかというのも、当然検討しています。ただ、今、耐震補強がされていて、大きな地震が来ても校舎が崩れない構造になっているんですけれども、これをエレベーターをつけることによって、大きな地震に耐えられなくなってしまうおそれが出てしまうということがあります。 それから、設置する場所はどうしましょうか。仮につけられたとしても、建物を建てるときは、周りの建物に、この時間は日影になっていいですよという時間が決められています。それがあまり長くなってはいけない日影規制というのがあって、エレベーターをつけることによって、日影になってしまう時間が周りに増えてしまうということもあります。 そういうことなので、建て替えではなくて、エレベーターだけを学校につけるというのは、やはり難しいという結論に至っています。 南田中小学校も、エレベーターの代わりに階段昇降機をつけていると思いますが、一応、いろいろな制約の中で、今できるバリアフリーを講じて、できるだけ全ての人が利用しやすい、来てもらえるような学校になるようにしているところです。

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
8	東京都が推進する週休3日についてどう思いますか。(学校に取り入れますか?)	学校に取り入れるかどうかということは教育委員会でも話したことはないのですが、私個人の意見になりますが、よろしくお願いします。 では質問のお答えをしますけれども、東京都が推進する週休3日についてどう思いますか。これは私の意見ですが、東京都で働く職員の方々がいろいろな働き方ができるという意味では、週休3日もいいのかなと私は思います。ただ、仕事量は決まっているので、休みが1日増えると、1日当たりの仕事が、普通は8時間で終わった仕事が10時間でやらなくてはいけないとか、そういうことになると思います。それでもお休みが増えたほうがいいという人もいるかと思うので、選択できるということはいいいのではないかと思います。 週休3日を学校に取り入れるかというのは、先ほど申し上げたように教育委員会で話したことはありませんが、外国のほかの国で週休3日を取り入れたり、日本の中でも試験的に取り入れている私立学校は、少数だけでも、あります。今、学校は週休2日ですよね。5日学校があつて、2日休みがある。実は、私が小学生の頃は学校に6日行っていました。休みは1日だけです。ずっと長い間、そうでした。平成4年ぐらいに、月1回、土曜日が休みになりました。今から30年前の平成7年に、ようやく月に2回、土曜日がお休みになり、今から23年前の平成14年に、全部の土曜日がお休みになった。週休1日から週休2日制にするのに10年かかった。それだけ、教育制度を変えるというのは大変なことです。 また、皆さんが学校に行かないということは、ご家族の方や地域の人たちが、皆さんがいろいろなところで活動できるような環境を整えなくてはならない。そういうことを社会ができるようにする、それがすごく必要なんです。だから、学校だけが3日休んでいいという話ではないという、そのところを少し理解しておいていただければいいかなと思います。 結論から言うと、そういう制度を取り入れるには慎重であるべきですが、今後、教育環境もや働き方も変わるでしょうから、週休3日制は将来的にはあるかもしれませんが、少し慎重に考えていく問題だと私は思っています。